

ソーシャルビジネス・ネットワーク



2013年10月～2014年9月
年次レポート

S B N

2013-2014
ANNUAL REPORT
Social Business Network (SBN)

代表理事からのご挨拶

「ソーシャルビジネス・ネットワーク」は、設立直後に東日本大震災が勃発したこともあり、この4年ほどは被災地の復興をソーシャルビジネスの観点で応援できないかと模索してまいりました。それは、東北の復興を日本という国の再生に見立て、私たちの社会のあり方のどこに問題があったのか、人と人との関係、企業のあり方までも問い直す作業でもありました。こうした活動の経験を、今年は被災地以外にも広げ、ソーシャルビジネスの動きを日本各地に創り出したいと考えています。

世界中で格差が拡大しています。クレディ・スイス銀行の2013年調査では、世界人口の0.7%が、世界の富の41%を所有しているといえます。世界経済フォーラムが「2015年に世界が直面する重大問題」を各界識者約1700人に質問した結果、トップは「格差拡大」でした。先日、新聞を何気なく見ていましたら、「東京・西新宿の60階建ての150平方メートルの部屋、3億5000万円台。高さは208.97メートル。上層階からは富士山が見える」という記事がありました。こんな謳い文句の部屋が、あっという間に売れるというのです。一体、誰が住むのでしょうか？米国でも15億円ぐらいの邸宅物件がどんどん売れる一方で、米国人世帯の3分の1は持ち家もない。貧困層は約5千万人。日本が理想としてずっと追い求めてきた米国的社会は、実は気の遠くなるような格差が生まれる弱肉強食の社会でした。わが国は、こうした社会を目指すのでしょうか。

正月に、岩手県沿岸に住む友人から年賀状がきました。「半世紀以上も前、浜は子供たちの遊び場だった。家族で海水浴に行くと女性たちは、ヒジキをひと鍋分だけ干し、帰りに持ち帰った。『食べる分だけだぞ』。漁協組合員の伯父は必ず念を押した」。三陸海岸の美しい自然と資源はこうして守られてきたというのです。人間が、それなくしては生きていけないもの、それが「コモンズ」でした。空気、水、土、太陽の光、そして生物多様性など。ひと昔前は、このコモンズに私企業が手を出すのは禁じ手でした。しかし、巨大企業はこのコモンズに手を出し始めました。いま起こっているグローバリズムの問題点はここにあると思います。

企業といえども、いつまでも自分の利益だけを追求することは許されなくなりました。企業活動を通じて、社会にいかに関与するか、社会的責任をいかに果たしていくかが問われています。日本に、世界のモデルとなるようなソーシャルビジネス、社会的企業を根付かせ育成していきたいと思っています。そして、そのネットワークをしっかりと社会に張り巡らせていきたい。多くの企業、団体、個人の皆さまが当団体に参加されますことを心から願います。



一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
代表理事 藤田和芳

目次

I.	事業報告	3
1	今期戦略方針の振り返り	3
1.1	事業に関する方針	3
1.2	組織運営に関する方針	4
2	個別事業報告	4
2.1	SBタウン・インキュベーション	4
2.2	生き方・働き方を変える大学	7
2.3	課題先進国会議	7
2.4	課題先進国ギャザリング	8
3	組織運営報告	11
3.1	入会促進	11
3.2	地域連携	12
3.3	広報・PR	12
3.4	メンバーの拡充	13
3.5	定例会議	13
II.	事業戦略	15
1	基本方針	15
1.1	事業に関する方針	15
1.2	組織運営に関する方針	15
2	事業計画	15
2.1	事業ビジョン	15
2.2	事業スキーム	16
2.3	事業内容	17
3	組織戦略	24
3.1	全体方針	24
3.2	地域連携	24
3.3	入会促進	24
3.4	広報・PR	24
3.5	メンバーの拡充	25
3.6	定例会議	25
4	スケジュール	25

I. 事業報告

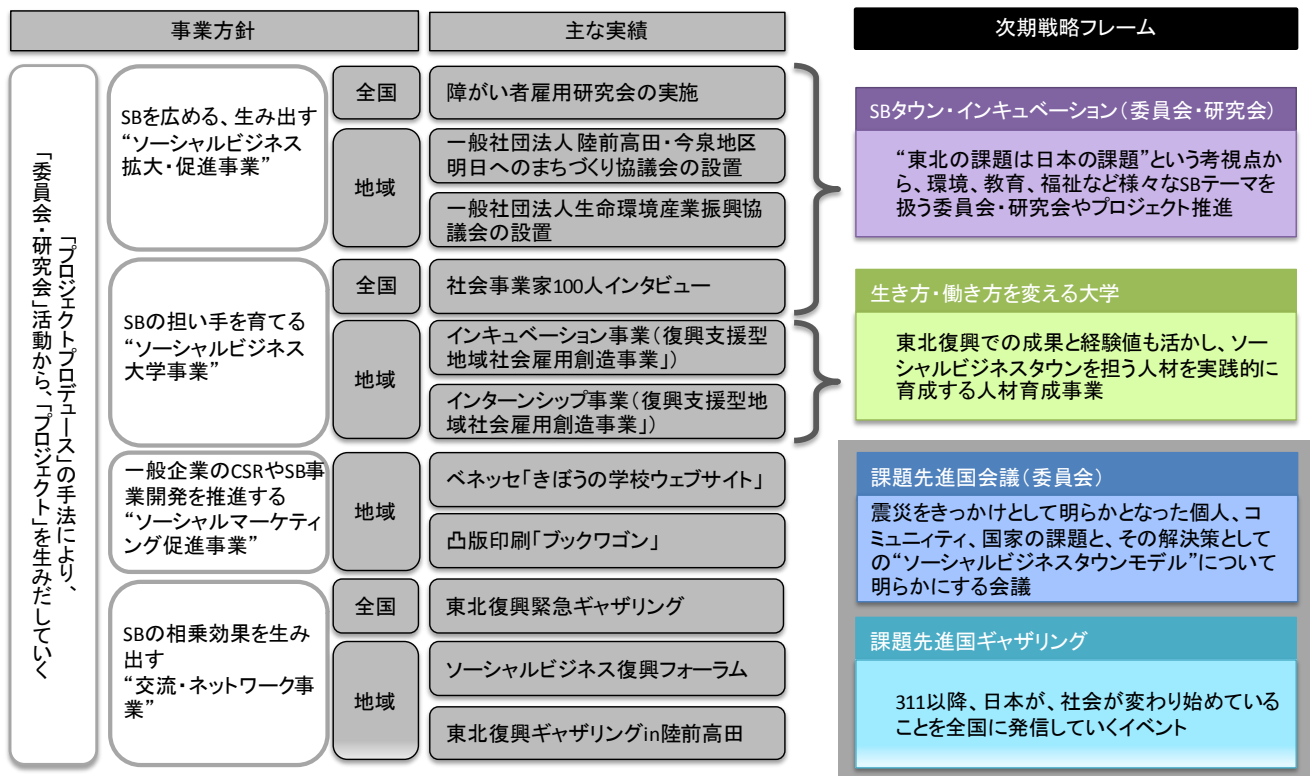
1 今期戦略方針の振り返り

理事会及び社員総会での承認のもと、以下の計画に基づき、事業推進、組織運営を図ってきました。

1.1 事業に関する方針

- 前期の実績をもとに、「地域アプローチ」、「全国アプローチ」という手法に変えて、当初より掲げていた“東北復興を通じて地域から日本を変えていく”という視点からこれまでの事業を一気通貫する形で集約し、人材育成及び事業創出を中心に展開していく。
- 「地域アプローチ」においては、これまでフィールドとしてきた岩手県陸前高田市を引き続きフィールドとして設定し、様々なソーシャルビジネスの実証実験を行うことで、全国にモデル移転することのできるソーシャルビジネスのプロトタイプ化を図る。そのための拠点として、2014年9月にオープンを予定している研修宿泊施設「箱根山テラス(仮称)」(事業主体:なつかしい未来創造株式会社 * 陸前高田市の復興まちづくり会社)を活用していく。

(今期戦略フレーム展開概要)



1.2 組織運営に関する方針

- 国や行政の復興予算は縮小傾向にあるため、今後は補助金等に頼らない事業モデルを構築する必要がある中、法人会員、個人会員共に、会費収入の拡充を図っていく。
- そのために、フェイスブックを中心とした日常的な情報提供を強化し、会員サービスや入会促進の一環として、定期的なイベントを開催していく。
- また「東北復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」(旧:被災地復興ソーシャルビジネスフォーラム&メッセ)などの全国イベントや、被災地外でのソーシャルビジネス・タウンモデルの検証などを通じて、引き続き地域協議会との連携を高め、全国レベルでのソーシャルビジネスの拡大・推進に努めていく。

2 個別事業報告

2.1 SB タウン・インキュベーション

“東北復興を通じて地域から日本を変えていく”という視点から、縁のあった岩手県陸前高田市において、前々期、40社の社会的企業に対するインキュベーション支援を行いました。今期は各事業者に対するフォローアップを行ってきました。

また「働き方委員会」、「社会事業家 100 人インタビュー」等を通じ、福祉、教育、環境など個別のSBテーマを取扱い、ビジネスモデルや、まちづくりモデル等の検討を図ってきました。

また個別の実績として、植木力常務理事の一般社団法人京都ソーシャルビジネス・ネットワーク及び株式会社カスネットが、SBN が陸前高田市で展開した防災セミナーのノウハウを、京都を中心とした関西に移転する形でセミナーを展開していくことになりました。

今後、これらの知見を全国で展開していけるようツール化し、地域協議会への情報提供及び推進のための連携を図っていきます。

(1)東北の社会的企業に対するインキュベーション・フォローアップ

前々期に展開した“ソーシャルビジネス トライアル 東北リーグ(内閣府「復興支援型地域社会雇用創造事業」補助金を活用)”でインキュベーション支援を行った 40 社の社会的企業に対し、SBN が支援をしている一般社団法人 生命環境産業振興協議会の補助事業をサポートする形で、今期も引き続きフォローアップ活動を行いました。

具体的には、渡邊常任顧問の株式会社アイエスエフネットが運営する表参道のレストラン「l'artisan(ラルティザン)」をお借りし、8月2日(土)、12月6日(土)に、「岩手三陸うまいもの復興市」(被災地の今を紹介するランチ会も併催)を行いました。



(2)働き方委員会

谷口奈保子副代表理事(特定非営利活動法人ぱれっと)が担当理事を務め、SBN 会員の有志メンバーが企画運営する委員会活動。委員会では、何を検討していくか、働くということは何なのかといったベーシックな議論から始まり、委員会としての具体的展開に関する議論が行われました。その結果、セミクローズドなケーススタディ研究会「みんなの働きたい！ 応援ゼミナール」を開催することが決定し、全3回のうち2回のセミナーを開催しました。

また委員会での活動実績をもとに、厚生労働省社会福祉推進事業「生活困窮者の就労支援に関する検討会」委員に町野事務局長が就任し、提言を行うとともに、第3回会合には、社会的企業としての先進モデルの位置づけで、ゲストスピーカーとして渡邊幸義常任顧問(株式会社アイエスエフネット)を招聘しました。

【「働き方委員会」開催概要】

	開催日	検討内容
第1回	2013年10月24日	委員会の展開、働くということは
第2回	2013年11月14日	委員会の展開、働くということは
第3回	2013年12月3日	委員会の展開、働くということは
第4回	2014年1月14日	具体的展開
第5回	2014年2月6日	具体的展開
第6回	2014年2月26日	具体的展開のビジョン、ミッション、内容
第7回	2014年3月10日	招聘したい講師
第8回	2014年4月16日	イベント内容
第9回	2014年5月2日	イベント内容
第10回	2014年6月9日	イベント内容
第11回	2014年6月26日	イベント内容
第12回	2014年7月16日	イベント内容
第13回	2014年8月26日	イベントの振り返りと今後について
第14回	2014年9月11日	イベント内容

(開催時間: 19:30~21:00、開催場所: SBN 会議室)

【「みんなの働きたい！ 応援ゼミナール」開催概要】

	開催日	ゲストスピーカー	参加人数
第1回	2014年 7月29日(火)	池田徹氏 (社会福祉法人生活クラブ風の村 理事長)	23人
第2回	2013年 9月2日(火)	巻口徹氏 (横浜市中区福祉保健センター担当部長)	17人

(開催時間: 19:00~21:00、開催場所: SBN 会議室)



(3)社会事業家 100 人インタビュー

社会的企業家を毎回 1 人、ゲストにお迎えし、川北秀人理事(IIHOE<人と組織と地球のための国際研究所>)の進行により、そのビジネスモデルを明らかにする公開型インタビュー。各地の社会的企業家支援組織との連携により、岡山、名古屋、静岡、横浜、山形などへと開催地が広がっています。

回	開催日時	開催場所	ゲスト	参加人数
第 20 回	2013 年 10 月 26 日(木)	静岡市※共催:地域デザインカレッジ	広瀬敏通氏(日本エコツアー ズムセンター)	7 人
第 21 回	2013 年 11 月 12 日(火)	SBN 会議室	谷口奈保子氏((特)ぱれっ と理事)	10 人
第 22 回	2013 年 11 月 30 日(土)	静岡市※共催:地域デザインカレッジ	吉岡マコ氏((特)マドレボニ ータ代表)	25 人
第 23 回	2013 年 12 月 19 日(木)	SBN 会議室	日野公三氏(アットマーク・ラ ーニング代表取締役)	8 人
第 24 回	2014 年 2 月 21 日(金)	SBN 会議室	猪子 和 幸 氏 ((特) JCI Teleworkers' Network)	8 人
第 25 回	2014 年 3 月 4 日(火)	横浜市ニコマル ハニー カフェブンブン	岩本真実氏((株)K2 インタ ーナショナルジャパン)	8 人
第 26 回	2014 年 4 月 7 日(月)	ETIC 会議室	畦地履正氏((株)四万十ド ラマ 代表取締役)	10 人
第 27 回	2014 年 5 月 23 日(金)	SBN 会議室	谷井貞夫氏((特)北見NPO サポートセンター 理事長)	5 人
第 28 回	2014 年 6 月 6 日(金)	SBN 会議室	奥地圭子氏 中村国生氏 ((特)東京シューレン)	8 人
第 29 回	2014 年 5 月 28 日(水)	SBN 会議室	古我知浩氏(沖縄リサイク ル運動市民の会 代表)	3 人
第 30 回	2014 年 6 月 24 日(水)	横浜市 横浜市市民活動支援セ ンター	鷲尾公子氏(認定NPO法人 ぐるーぷ藤)	8 人
第 31 回	2014 年 7 月 19 日(土)	静岡市 アイセル 21	川口加奈氏(NPO 法人 Homedoor 理事長)	24 人
第 32 回	2014 年 8 月 3 日(日)	名古屋市 ブラザー コミュニケーシ ョン スペース	大久保智規氏(NPO 法人 エンド・ゴール)	19 人
第 33 回	2014 年 8 月 27 日(水)	岡山市 岡山市民会館	仲田芳人氏(かのさと体験 観光協会)	10 人
第 34 回	2014 年 9 月 17 日(水)	ETIC 会議室	石川治江氏((特)ケアセン ターやわらぎ)	14 人

(開催時間:19:00~21:00)※一部変則的な時間の開催あり



2.2 生き方・働き方を変える大学

課題先進国会議の成果や、これまでの事業成果、ノウハウを活かした人材育成事業。(担当理事: 海津常務理事(株式会社スワン))

東京での座学と、地域(今期は被災地—岩手県陸前高田市)でのフィールドワークを行い、単なるビジネスノウハウを学ぶ講座や被災の跡を訪ねるツアーとは異なり、被災地で懸命に生きる人からの智慧や胆力を感じ学びとり、生きることについて深く考える時間をつくりました。

	実施日時	展開内容	参加人数
実証 実験 講座	2013年 10月5日(土) (13時~20時)	SBN事務局での東京ゼミ。講座内容は、「ポスト3.11、歴史からの考察」熊野英介副代表理事(アマタホールディングス株式会社)、「ポスト3.11、日本人の働き方」海津歩常務理事(株式会社スワン)、「ポスト3.11、ものづくりはこう変わる」池内計司理事(池内タオル株式会社)。	11人
第1回	2013年 10月12日(土)~ 14日(祝)	自然と共生する暮らし方を震災後も変わらず続ける佐藤直志さん(映画「先祖になる」出演)、店や工場、自宅も全て失っても再起を志し、自社の再生や地域の復興のために闘い続けている 200年の歴史をもつ味噌・醤油屋八木澤商店の若社長、河野通洋社長と共に考える講座を展開。	6人
第2回	2014年 3月21日(土)~ 23日(祝)	「陸前高田ゼミ『誰にも“居場所と出番”があるまちづくりスタディツアー』」。障がい者雇用に取り組むあすなるホーム、ハローワーク大船渡、今泉地区まちづくり協議会等訪問ヒアリングの後、戸羽市長が提起する「ノーマライゼーションという言葉がいないまち」のあり方に関する議論を行う。	7人



2.3 課題先進国会議

熊野英介副代表理事(アマタホールディングス株式会社)を担当理事(モデレーター)に、3.11後、働き方を見直し変えた方々や、人や地球に優しい心地よい生き方、働き方、暮らし方を実践している方々、研究者をゲストにお招きし、問題意識、価値観、実践の仕方などについて参加者と共有し、「震災の年に生まれた子供たちの20歳の年に、どんな未来を渡すのか?」について会場と共に考えていくトークセッション。(共催: 公益財団法人信頼資本財団、協賛: NEC、協力: アマタホールディングス株式会社)

	開催日時	開催場所	展開内容	参加人数
第1回	2013年 11月23日(土) (18時~20時)	スワンカフェ &ベーカリー	社会学者の宮台真司先生をお招きしたトークセッションを展開。	34人
第2回	2014年 1月17日(金) (19時~22時)	スワンカフェ &ベーカリー	海津歩常務理事(株式会社スワン)をゲストに、ソーシャルシネマ「サバイビング・プログレス - 進歩の罫」の視聴とトークセッションを展開。	18人
第3回	2014年 3月7日(金) (19時~22時)	アマタホールディングス東京本店	河野通洋氏(株式会社八木澤商店代表取締役)、成澤俊輔氏(株式会社ISFnet ハーモニー広報戦略部長兼、NPO法人FDA理事)、前田有香氏(立教大学大学院 文学研究科教育学専攻博士課程前期課程)、海津歩氏(株式会社スワン代表取締役社長)の話題提供をヒントとする、陸前高田市を誰もが働くことのできるまちにするにはどうすればよいかに関するワークショップを展開。	31人
第4回	2014年 6月27日(金) (19時~21時)	アマタホールディングス東京本店	ゲスト:松場登美評議員(群言堂株式会社石見銀山生活文化研究所所長)	21人



2.4 課題先進国ギャザリング

「課題先進国会議」での検討結果や、「生き方・働き方を変える大学」での実践結果を報告、共有すると共に、政策提言や新たな参画を募る場としてのギャザリングイベント。

今期も引き続き、経済産業省の「東日本大震災復興ソーシャルビジネス創出促進事業費補助金(ソーシャルビジネス復興フォーラム事業)」補助金を受け、「被災地復興ソーシャルビジネスフォーラム(メッセ)」として展開しました。

ソーシャルビジネスによる被災地の復興を促進するため、関係者の交流促進と市民等に対する普及啓発を目的とし、地域フォーラムを青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の被災5県で開催し、各地域の復興モデルを明らかにした上で、全体フォーラムを宮城県仙台市で実施し、それぞれの復興モデルを共有し、全国に向けて発信しました。

地域フォーラムでは人材育成講座、基調講演、パネルディスカッションを、全体フォーラム(メッセ)ではこれらに加え、展示会と物産市も行いました。

(実施概要)

	実施日時	会場	テーマ	参加人数
地域 フォー ラム	2013年11月19日(火) (13:00~19:00)	福島県郡山市(市民交 流プラザ)	農業と再生可能 エネルギー	121人
	2014年1月23日(木) (15:00~20:45)	青森県八戸市(八戸ポ ータルミュージアム)	地域資源を活かし たビジネス	54人
	2014年1月25日(土) (13:00~17:30)	岩手県陸前高田市(キ ャピタルホテル 1000)	適正規模のビジ ネス	87人
	2014年2月11日(祝) (13:30~19:00)	茨城県日立市(ホテル 天地閣「はまゆう」)	地域ブランドとデ ザイン	64人
	2014年2月15日(土) (10:30~17:00)	宮城県石巻市(アイト ピアホール)	新規事業者が継 続する環境	52人
全体 フォー ラム(メ ッセ)	2014年3月15日(土) (11:00~18:30)	宮城県仙台市(エル・ パーク仙台、一番町四 丁目商店街)		約3,600人 (出展162社)

(実施体制)

地域	主催/共催	協力	後援
福島県 郡山市	特定非営利活動法 人うつくしまNPOネ ットワーク/ 一般社団法人ソー シャルビジネス・ネ ットワーク	福島県ソーシャルビジネス 推進協議会/ふくしま再生 可能エネルギー事業ネット/ 福島県環境・エネルギー NPO連絡協議会	福島県郡山市/郡山商 工会議所/福島県中小 企業家同友会/日本政 策金融公庫郡山支店/ (財)郡山地域テクノポリ ス推進機構/福島民報社 /福島民友新聞社/福島 テレビ/福島中央テレビ/ テレビユー福島/福島放 送/コミュニティラジオ放 送ココラジ/FMふくしま/ 福島県商工信用組合/ 郡山信用金庫/郡山ブラ ンド野菜協議会/特定非 営利活動法人ソーシャ ルデザイン・アソシエイツ /一般社団法人ふくしま NPOバンク
青森県 八戸市	一般社団法人あお もりコミュニティビジ ネスサポートセンタ ー/ 一般社団法人ソー シャルビジネス・ネ ットワーク	東北ソーシャルビジネス推 進協議会	経済産業省/復興庁/青 森県/八戸市/青森県商 工会連合会/八戸商工 会議所/日本政策金融 公庫仙台支店/東奥日 報社/デーリー東北新聞 社

岩手県 陸前高田市	なつかしい未来創造株式会社/一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク	特定非営利活動法人遠野山・里・暮らしネットワーク/ 特定非営利活動法人遠野まごころネット/一般社団法人 SAVE IWATE/一般社団法人さんりく未来推進センター/特定非営利活動法人いわて連携復興センター	経済産業省/復興庁/岩手県/陸前高田市/陸前高田商工会/岩手県中小企業家同友会/日本政策金融公庫仙台支店/岩手日報社/東海新報社
茨城県 日立市	特定非営利活動法人コミュニティビジネスサポートセンター/一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク	広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会	経済産業省/復興庁/茨城県/日立市/日立商工会議所/日本政策金融公庫日立支店/NHK水戸放送局/日立ケーブルテレビ JWAY
宮城県 石巻市	一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 【共催】 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター/ 石巻連携復興センター	株式会社まちづくりまんぼう/石巻専修大学復興共生プロジェクト/EPO東北(東北環境パートナーシップオフィス)/特定非営利活動法人いしのまきNPOセンター/一般社団法人ISHINOMAKI2.0/特定非営利活動法人応援のしっぽ/一般財団法人地域創造基金みやぎ/みやぎ連携復興センター	経済産業省/復興庁/宮城県/石巻市/石巻商工会議所/日本政策金融公庫仙台支店/河北新報社/石巻日日新聞
宮城県 仙台市	一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 【共催】 東北ソーシャルビジネス推進協議会	一般社団法人あおもりコミュニティビジネスサポートセンター/なつかしい未来創造株式会社/特定非営利活動せんだいみやぎNPOセンター/特定非営利活動法人うつくしま NPO ネットワーク/ 特定非営利活動法人コミュニティビジネスサポートセンター	経済産業省/内閣府/復興庁/青森県/岩手県/宮城県/福島県/茨城県/仙台市/仙台商工会議所/仙台経済同友会/日本政策金融公庫仙台支店/河北新報社



3 組織運営報告

3.1 入会促進

法人会員については、理事等からの紹介を通じた積極的なアプローチを行う計画を立てていましたが、これまで結果が実らなかったため、理事の方々へのより一層の協力を求めていきました。一方で、顧問や評議員、フェローなどとして参画いただいている組織についても会費の支払いをお願いしたところ、新規に会費を納めてくださる会員が増えました。また個人会員の入会促進のために、「社会事業家 100 人インタビュー」や「課題先進国会議」、「ソーシャルビジネス・カフェ」など、隔月1回程度の頻度でイベントを開催していきましたが、微増はしたものの大きな会員数増加につなげることができませんでした。

会員種別	数	名称(敬称略、順不同)
法人会員 A	11 社 (昨年度 11 社)	らでいっしゅぼーや、アメリカン・エクスプレス・インターナショナル、大東印刷工芸、マナテックジャパン、損害保険ジャパン、ヒゲタ醤油、大地を守る会、電通、味の素、パタゴニア日本支社、アマタホールディングス
法人会員 B	22 社 (昨年度 27 社)	ソーシャルファイナンス支援センター、大川印刷、民際センター、スワン、アットマーク・ラーニング、三鷹ネットワーク大学、コミュニティビジネスサポートセンター、ETIC.、セルフ、中村ブレイス、IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)、大阪 NPO センター、フェアトレードカンパニー、森のエネルギー研究所、アライアンス・フォーラム財団、JCI Teleworkers' Network、IKEUCHI ORGANIC、カスタネット、キャリア・ママ、四万十ドラマ、じぶん未来クラブ、北海道グリーンファンド
個人会員	25 人 (昨年度 21 人)	
学生会員	1 人 (昨年度 3 人)	

(「ソーシャルビジネス・カフェ」の展開について)

2013 年 12 月 12 日の理事会、社員総会の開催に合わせ、同会場(アイエスエフネットサポートトレーニングセンター)にて、宮城治男理事(特定非営利活動法人 ETIC. 代表理事)の協力のもと、「ソーシャルビジネス・カフェ」を展開しました。

- ・ 開催時間 18:30～21:00
- ・ 展開概要

第1部:ソーシャルビジネス・プレゼンテーション(若手社会的企業家によるプレゼンテーション)プレゼンター:富山泰庸さん(ロッツ(株)代表取締役)、大谷太郎さん(明治学院大学1年生)、桑原憂貴さん(株紬 代表)、石川良樹さん((社)手と手をネット代表理事)

第2部:先達と若手が語る膝詰め座談会(社会企業の先達に、じっくりと個別の相談ができる座談会)先達:藤田和芳代表理事(株式会社大地を守る会)、熊野英介副代表理事(アマタホ

ールディングス株式会社)、谷口奈保子副代表理事((NPO 法人ぱれっと)、海津歩常務理事(株式会社スワン)、モデレーター:川北秀人理事(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所])



3.2 地域連携

「被災地復興ソーシャルビジネスフォーラム(メッセ)」などの全国イベントを通じて、地域協議会との連携を高め、全国レベルでのソーシャルビジネスの拡大・推進に努めてきました。

5 月には、町野弘明事務局長が関戸美恵子理事(一般社団法人 SR 連携プラットフォーム代表理事)、山田裕子理事(認定 NPO 法人大阪 NPO センター副代表理事)の事務所を訪問し、中部、近畿の各協議会の今後について議論を行いました。SB における直接的な社会投資市場の場づくりや企業と NPO のコラボレーション事業の推進などが今後の課題として挙がりました。

3.3 広報・PR

メールマガジンやフェイスブック等での活発な情報発信を行ってきました。メールマガジン読者は 3,050 人、フェイスブック登録者は 1,735 人となっています。(2014 年 9 月末現在)

社員のみなさまにご協力いただいている連続コラムは好評を博しています。

(連続コラム「ポスト 311 の日本とソーシャルビジネス」執筆者)

回	執筆者
第 5 回	鈴木均 理事(株式会社 国際社会経済研究所 代表取締役社長(兼 NEC CSR・環境推進本部 主席主幹))
第 6 回	植木力 常務理事(株式会社カスタネット代表取締役社長・社会貢献室長)
第 7 回	横石知二 副代表理事(株式会社いんどり 代表取締役社長)
第 8 回	更家悠介 副代表理事(サラヤ株式会社 代表取締役社長)
第 9 回	川北秀人 理事(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者)
第 10 回	中川芳江 理事(Office SPES 代表)
第 11 回	原田勝広 理事(明治学院大学教授、ジャーナリスト[元日本経済新聞編集委員])
第 12 回	関正雄 理事(損保ジャパン日本興亜株式会社 CSR 部上席顧問)
第 13 回	山田裕子 理事(認定 NPO 法人大阪 NPO センター 理事・事務局長)
第 14 回	日野公三 理事(明蓬館高等学校 理事長兼校長 / 株式会社アットマーク・ラーニング 代表取締役社長)
第 15 回	町野弘明 専務理事(事務局長)(株式会社ソシオ エンジン・アソシエイツ 代表取締役社長)
第 16 回	加藤喜久 理事(Informa Investment Solutions Japan - GM / (株)レスポンスアビリティー GM)

第 17 回	永沢映 理事(特定非営利活動法人コミュニティビジネスサポートセンター代表理事)
第 18 回	猪子和幸 監事(NPO 法人 ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワーク 理事長)
第 19 回	胤森なお子 理事(ピープル・ツリー／フェアトレードカンパニー株式会社常務取締役)
第 20 回	関戸美恵子 理事(一般社団法人 SR 連携プラットフォーム代表理事)
第 21 回	中村俊郎 顧問(中村ブレイス代表取締役社長)
第 22 回	森山奈美 評議員(株式会社御祓川(みそぎがわ)代表取締役社) 〔活動紹介:村田早耶香 評議員(特定非営利活動法人かものはしプロジェクト共同代表)〕
第 23 回	塩島義浩 理事(株式会社資生堂 CSR 部長)
第 24 回	山口亮三 評議員(NPO 法人三鷹ネットワーク大学推進機構常務理事) 〔活動紹介:高橋一郎 評議員(西武信用金庫常勤理事、業務推進企画部長)〕
第 25 回	松場登美 評議員(群言堂(株式会社石見銀山生活文化研究所)研究所所長) 〔活動紹介:岩坂健志評議員(株式会社未来思考代表)〕
第 26 回	鎌田恭幸 評議員(鎌倉投信株式会社代表取締役社長)
第 27 回	藤井郁乃 評議員(トヨタ自動車株式会社 総合企画部 CSR 室長 担当部長)
第 28 回	矢崎和彦 常任顧問(株式会社フェリシモ代表取締役社長)

3.4 メンバーの拡充

事業を通じて関わりを持っていただいた方々に積極的に評議員、アドバイザー等にご就任いただくことを呼びかけてきました。

(新たに就任いただいたメンバー)

- ・ 杉浦 俊明 氏(森永製菓株式会社 コーポレートコミュニケーション部長)
- ・ 山口 亮三 氏(NPO 法人三鷹ネットワーク大学推進機構 常務理事)
- ・ 高津 玉枝 氏(株式会社福市/LOVE&SENSE 代表取締役)
- ・ 藤井 郁乃 氏(トヨタ自動車株式会社 総合企画部 CSR 室長 担当部長)

3.5 定例会議

計画に基づいた定例会議の開催を進めてきました。(社員総会:年 1 回、経営会議:年 2~4 回、理事会:年 2 回)

(開催日程)

種別	開催日時 (開催場所)	議題	参加者(定足数)
経営会議 (第 12 回)	2013 年 10 月 18 日(金) 9:00~18:00(事務局会議室)	次期事業戦略フレーム、組織体制及び役員の推進体制、会員拡大、個別事業展開	藤田和芳代表理事、熊野英介副代表理事、谷口奈保子副代表理事、町野弘明専務理事、植木力常務理事、海津歩常務理事
理事会 (第 9 回)	2013 年 12 月 12 日(木) 16:15~16:30(アイエスエフネットサポートトレーニングセンター)	第 1 号議案:役付き役員人事について	23 名

社員総会	2013年12月12日(木) 16:30~18:00(アイエス エフネットサポートトレ ーニングセンター)	第1号議案:役員人事に ついて 第2号議案:平成24年 度事業活動報告 第3号議案:平成24年 度事業収支報告 第4号議案:平成25年 度事業活動計画 第5号議案:平成25年 度事業収支計画	66名
経営会議 (第13回)	2014年1月17日(金) 13:30~17:30(事務局 会議室)	今期事業計画、個別事 業展開、組織体制・事務 局運営	藤田和芳代表理事、熊野 英介副代表理事、谷口奈 保子副代表理事、町野弘 明専務理事、植木力常務 理事、海津歩常務理事
経営会議 (第14回)	2014年6月27日(金) 14:00~17:30(事務局 会議室)	事業中間報告、収支中 間報告、事業計画、収 支計画、組織体制、事 務局運営	藤田和芳代表理事、熊野 英介副代表理事、谷口奈 保子副代表理事、町野弘 明専務理事、 植木力常務理事、海津歩 常務理事
理事会 (第10回)	2014年7月30日(水) 10:00~12:30(NEC本 社ビル)	第1号議案:社員の 新退任について 第2号議案:事業中 間報告 第3号議案:収支中 間報告 第4号議案:事業戦 略	藤田和芳代表理事、熊野 英介副代表理事、谷口奈 保子副代表理事、町野弘 明専務理事、植木力常務 理事、加藤喜久理事、佐藤 剛理事、澤山弘理事、鈴木 均理事、関正雄理事、関戸 美恵子理事、胤森なお子 理事、中川芳江理事、永沢 映理事、原田勝広理事

II. 事業戦略

1 基本方針

1.1 事業に関する方針

今年度設定していた4つの事業ドメイン(「SBタウン・インキュベーション」、「生き方・働き方を変える大学」、「課題先進国会議」、「課題先進国ギャザリング」)を1つの事業ドメイン「ソーシャルビジネス・タウン創生事業」に集約します。

この間、震災復興により蓄積されたモデル形成の知見とノウハウを、全国の地方創生に向けた水平展開を図るべく、汎用的に活かしていきます。

27年度、28年度でソーシャルビジネス・タウン創生のための候補地を開拓し、29年度から本格的に地域づくりを進め、ソーシャルビジネスによる地方創生を図ります。

併行して、今後の地方創生において望まれるソーシャルビジネス・タウンの考え方・あり方について、引き続き調査・研究・実証実験を行い、然るべき定義と共有が図れるようにします。

1.2 組織運営に関する方針

事業開発の入口は地方創生予算を、出口は雇用助成金をシーズマネーとして活用します。

中期的な考え方として、SBNとしての事業収益構造について、7割補助金等行政予算、3割自主事業(会費含む)を目指します。

2 事業計画

2.1 事業ビジョン

大量生産、大量消費を進めた近代。何よりも経済成長とそのための効率化が優先され、自然や人間が”経費”ともいえるような扱いをされてきました。

その結果、環境は、取り返しがつかないまでに破壊され、年間3万人の自殺者を出し、私たちは、衣食住足りて決して幸福とは言えないような社会をつくり出しています。

2011年3月11日、日本を襲った未曾有の災害により改めて、私たちは、消費と所有でなく、共感や共有に満たされた豊かな生活を望み、新しい生き方や働き方を模索、実践し始めるようになってきました。そこでは少子化対策や女性の活躍などを含め、高齢者や障がい者、被災者に至るまで“誰にも居場所と出番がある”社会が求められています。

SBNはこのような背景に基づき、信頼資本、人間関係資本など、様々な社会資本が地産地消で循環し、さらにそれが生きがいにつながっていく地域～ソーシャルビジネス・タウン～を、人や地球に優しい、持続可能な地域モデルとして捉え、全国に、ソーシャルビジネス・タウンを創生していくことを目指しています。

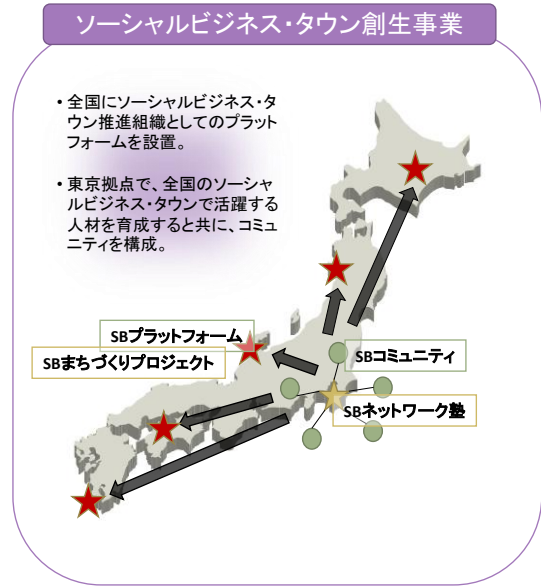
そのために、各地にソーシャルビジネス推進拠点や体制を整備し、核となるソーシャルビジネスを創出すると共に、そこで活躍する人材育成を行っていきます。

2.2 事業スキーム

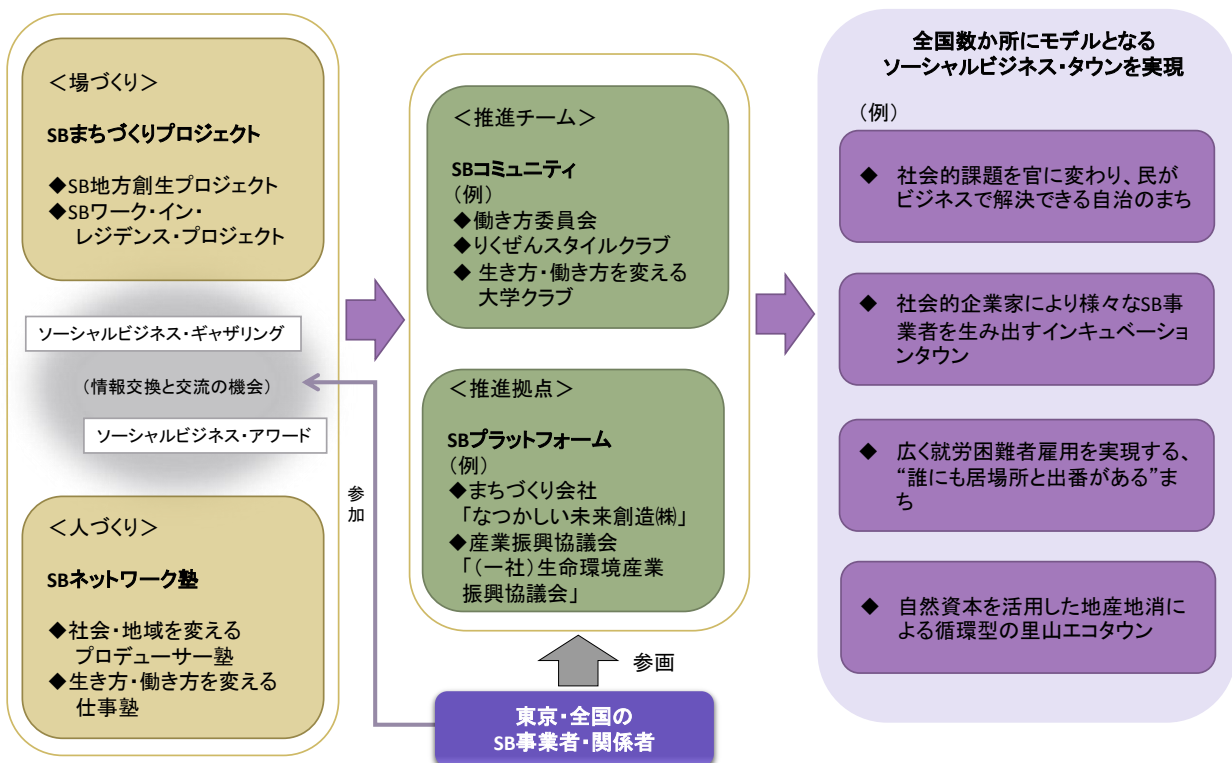
ソーシャルビジネス・タウン創生のための“SB まちづくりプロジェクト”と、ソーシャルビジネス・タウン創生のための“SB プラットフォーム(推進組織)”を展開していきます。

全国にソーシャルビジネス・タウン推進体制として、“SB コミュニティ”、“SB プラットフォーム”を設置します。

また東京を拠点に、地域のソーシャルビジネス・タウンで活躍する人材を育成し、流動を図る“SB ネットワーク塾”とソーシャルビジネス・タウンを共に推進するサークル活動“SB コミュニティ(推進チーム)”を展開。



“場づくり”と“人づくり”により、ソーシャルビジネス・タウンを創生する。



2.3 事業内容

(1) SB まちづくりプロジェクト

①「SB 地方創生プロジェクト」

ソーシャルビジネス・タウン創生のための事業創造。

社会的行動動機や報酬に基づいたライフ&ワークスタイルが活かされる新社会システムを設計する。先行事例として伝統技術が最先端の ICT に活かされた鯖江モデルや行政機能のオープンソース化を進めている武雄モデルなどが挙げられる。

この間、SBN が支援している一般社団法人 生命環境産業振興協議会への協力により、渡邊常任顧問の株式会社アイエスエフネットと協働する形で、復興庁「平成 26 年度『新しい東北』先導モデル事業」予算を獲得し、8 月より、誰もが働くことのできるまち“ユニバーサル・ワーカーズ・バレー（仮称）”モデルを計画すべく、活動を開始している。

地域創生予算など国の予算をシーズマネーとし、事業開発、実証実験を行う。

②「SB ワーク・イン・レジデンス」

雇用助成金を活用したワーク・イン・レジデンスを各地域の推進拠点において推進する。（※ワーク・イン・レジデンスとは、アーティスト・イン・レジデンス[アーティストが一定期間地域に居住しながら作品を作り上げること]から派生した言葉。地域に居住しながら、一定期間就業、ないしは起業することを指す。）

(2) SB ネットワーク塾

ソーシャルビジネス・タウンで活躍する人材や、I ターン、U ターン希望者のための、人材育成、体験学習事業。

①「社会・地域を変えるプロデューサー塾」

ソーシャルビジネス・タウンの創生に向けて、多様なステークホルダーを巻き込み、事業創造することができる人材を育成する講座。（「社会事業家 100 人インタビュー」、「課題先進国会議（熊野塾）」に、新たに、藤田塾、海津塾なども加え、地域での実地体験組み込んだ 3 か月程度の連続講座とする。）

②「生き方・働き方を変える仕事塾」

ソーシャルビジネス事業者への就業希望者を対象とした職業体験。ツアー型（半日から 2 泊 3 日程度まで）、ジョブシャドイング型（半日～3 日程度）、インターンシップ型（1～2 週間程度）とする。地域のライフスタイルの継承や伝承、古き良きことを現代に伝えていくような生活の民芸運動的な習い事講座や、歴史・文化・アートなどの今後のワークスタイルに望まれるリベラルアーツ講座なども展開していく。（社員教育等、企業等からの委託によるセミオーダー

メイド型の講座も展開する。)

〔「社会事業家 100 人インタビュー」の展開予定(※実施済みのものを含む)〕

回	開催日時	開催場所	ゲスト
第 36 回	2015 年 1 月 8 日(木)	ETIC.ソーシャルベ ンチャー・ハビタット	尾野寛明氏(有限会社エコカレッジ 代表取 締役)
第 37 回	2015 年 2 月 2 日(月)	渋谷※調整中	吉成信夫氏((特)岩手子ども環境研究所 理事長/森と風の学校)
第 38 回	2015 年 3 月 6 日(金)	大阪※調整中	中條桂氏((特)トウギャザー 理事長)

〔「課題先進国会議」の展開予定(※実施済みのものを含む)〕

	開催日時	ゲスト	参加
第 5 回	2014 年 10 月 17 日(金)	上村雄彦氏(横浜市立大学 国際総合科学部 国際都市学系グローバル協力コース 教授)	19 人
第 6 回	2014 年 12 月 2 日(火)	関根健次氏(ユナイテッドピープル株式会社 代 表取締役)	20 人
第 7 回	2015 年 2 月 13 日(金)	藻谷浩介氏(日本総合研究所 調査部 主席研 究員、地域エコノミスト)	

(3) ソーシャルビジネス・ギャザリング

「SB ネットワーク塾」で育成した人材と、全国のソーシャルビジネス事業者が一堂に会する年次イベント。

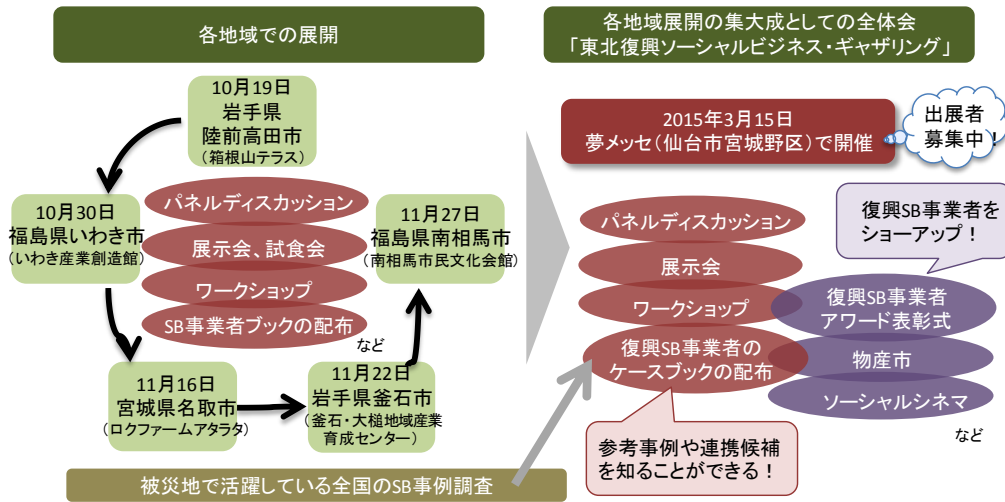
ステージプログラム、展示会、交流会などを行う。

今年度までは、東北復興をテーマとし、経済産業省補助事業として被災地にて開催するが、次年度以降は地方創生をテーマに、東京を含めた全国各地で展開していくことを想定。

〔「東北復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」の展開予定(※実施済みのものを含む)〕

10月から11月にかけて、岩手県陸前高田市、釜石市、福島県いわき市、南相馬市、宮城県名取市の5か所にて地域フォーラムを開催し、2015年3月15日に仙台市にて全体フォーラムを開催する。

■全体スキーム



■地域フォーラム

開催地域(主催、共催)	開催日時(会場)	キーノートスピーチ登壇者	パネルディスカッション等登壇者
宮城県名取市 (主催:SBN、共催:NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター、みやぎSBCB中間支援会議)	2014年11月16日(日) 12時~17時 (ロクファームアタラタ)	横石 知二氏 (株式会社いろどり 代表取締役)	[トークセッション] 風見正三氏(宮城大学事業構想学部 教授) 横石 知二氏(株式会社いろどり 代表取締役)
岩手県陸前高田市 (主催:SBN、共催:なつかしい未来創造株式会社)	2014年10月19日(日) ステージ、復興フェア: 13時~19時 (箱根山テラス)	畦地 履正氏 (株式会社四万十ドラマ 代表取締役)	[パネルディスカッション] 菅野秀一郎氏(菅久菓子店 代表) 河野通洋氏(株式会社八木澤商店 代表取締役) 橋詰真司氏(有限会社橋勝商店 代表取締役社長) 町野弘明(一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 専務理事) * モデレーター
岩手県釜石市 (主催:SBN、共催:NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク)	2014年11月22日(土) ステージ: 13時~18時 展示: 11時~18時 (釜石・大槌地域産業育成センター)	高津玉枝 氏(株式会社福 市 代表取締役)	[パネルディスカッション] 伊藤聡 氏(釜石市、三陸ひとつなぎ自然学校) 森田麻里 氏(紫波町、ならいまちこまち代表) 八木健一郎(大船渡市、(有)三陸とれたて市場代表) 伊藤文子氏(東北クロッシェ村ニット製品作り手) 菊池新一(遠野市、NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク 会長) * モデレーター
福島県いわき市 (主催:SBN、共催:NPO法人うつくしまNPOネットワーク)	2014年10月30日(木) 13時~18時 (いわき産業創造館)	市来広一郎 氏 (atamista 代表理事)	[パネルディスカッション] 白石長利氏(ファーム・白石代表) 高橋正行氏(株式会社磐城高箸 代表取締役) 佐藤良治氏(生木葉ファーム 代表) 市来広一郎 氏 佐藤直美氏(いわきリエゾンオフィス企業組合 理事長) * モデレーター
福島南相馬市 (主催:SBN、共催:NPO法人うつくしまNPOネットワーク)	2014年11月27日(木) 13時~18時 (南相馬市民文化会館)	河野通洋氏(株式会社八 木澤商店 代表取締役)	[パネルディスカッション] 西みよ子氏(NPO法人あさがお理事長) 和田智行氏(株式会社エクスブレイン 代表取締役) 澤田竜一氏(株式会社ドリームゲート 専務取締役) 丹治惣兵衛(福島県ソーシャルビジネス推進協議会 会長・国立大学法人福島大学 地域創造支援センター 特任教授) * モデレーター

■全体フォーラム

- ・タイトル: 東北復興ソーシャルビジネス・ギャザリング
 - ・開催日時: 2015年3月15日(日)10:00~19:30
 - ・場所: 夢メッセみやぎ西館(仙台市宮城野区港3丁目1-7)
 - ・主催: 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
 - ・共催: 東北ソーシャルビジネス推進協議会
 - ・後援: 経済産業省、岩手県、宮城県、福島県、仙台市、日本政策金融公庫、河北新報社、申請中:
復興庁、申請予定: 仙台商工会議所、仙台経済同友会
 - ・展開内容: ステージプログラム、展示会、物産市、東北復興ソーシャルビジネス・ケースブックの配布、など
- (※以下の内容は調整中)

ステージプログラム

▼ブース出展の合間に、ぜひご参加ください。事業運営のヒントがいっぱいです。(定員200名)

時間 13:00~17:40 **場所** 夢メッセみやぎ西館 展示場、会議室

被災各地で取り組まれているソーシャルビジネスの先進事例の紹介と各地の復興モデルを検証。日本全国からソーシャルビジネスのトップランナーが集結し、今後の日本と被災地の未来を語ります。※内容は一部調整中

13:00 挨拶、趣旨説明 藤田和芳氏(一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク代表理事
株式会社大地を守る会 代表取締役社長)

13:20 基調セッション「誰にも居場所と出番と信頼のある東北復興」
●モデレーター: 熊野英介氏(一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク副代表理事、
アマタホールディングス㈱代表取締役会長兼社長)
●パネラー: 渡邊幸義氏(㈱アイエスエフネット代表取締役、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク常任顧問)
河野通洋氏(㈱八木澤商店代表取締役、なつかしい未来創造株式会社専務取締役)

14:20 休憩

14:30 テーマセッション 1

①「持続可能なまちづくりを実現する
ソーシャルビジネス」

- モデレーター
・川村健一氏
(広島経済大学経済学部ビジネス情報学科
教授)
- パネラー
・横石知二氏(㈱いろどり代表取締役社長)
・松場登美氏(㈱石見銀山生活文化研究所
代表取締役所長)

②「多様なセクターとの連携による
ソーシャルビジネス」

- モデレーター
・風見正三氏(東北ソーシャルビジネス推進
協議会会長)
- パネラー
・日野公三氏(㈱アットマーク・ラーニング
代表取締役)
・石田達也氏(NPO法人宮崎文化本舗
代表理事)

③「東北復興ソーシャルビジネス最前線」
地域の仕事づくりやコミュニティの再生等、
復興に向け活躍する事業者の事例を紹介

- モデレーター
・佐々木秀之氏(東北ソーシャルビジネス
推進協議会事務局長)
- (16:00まで)

15:45 休憩

16:05 テーマセッション 2

④「地域リソースを活かしたソーシャルビジネス」

- モデレーター
・濱砂清氏(一般社団法人SINKa代表理事)
- パネラー
・池内計司氏(IKEUCHI ORGANIC(㈱)代表取締役)
・加納尚明氏(一般社団法人プロジェクトデザインセンター
代表理事)

⑤「ソーシャルビジネスが拓く復興まちづくりのかたち」

- モデレーター
・町野弘明氏
(ソーシャルビジネス・ネットワーク専務理事・事務局長)
- パネラー
・鈴木和隆氏(NPO法人うつくしまNPOネットワーク事務局長)
・菊池新一氏(NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク会長)
・田村満氏(なつかしい未来創造㈱代表取締役)
・佐々木秀之氏(NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター)

17:25 ソーシャルビジネス宣言、挨拶

17:40 閉会

展示会 「復興アクション応援フェア」

時間 10:00~17:00

場所 夢メッセみやぎ西館展示場



+ 販売したい方は「復興物産市」へ出品

**同時
開催**

「復興物産市」

展示会場に隣接して、物販コーナーを設置。商品の販売ができます

※出展料無料

時間 10:00~17:00

場所 西館屋外、大会議室

・東北復興ソーシャルビジネス・ケースブック

東北復興ソーシャルビジネス・アワードの受賞者、候補者を中心に、60程度の事業者を選定。ケースブックとして取りまとめ、全体フォーラム来場者に配布する。

(4) ソーシャルビジネス・アワード

ソーシャルビジネスの推進と普及を目指し、優れた取り組みを表彰するもの。

今年度は、経済産業省補助事業として展開する、上記のソーシャルビジネス・ギャザリングと合わせて展開し、東北復興支援に寄与するソーシャルビジネスのみを対象とするが、次年度以降は、地方創生をテーマに、広く様々な分野、支援エリアを対象とすることを想定している。

〔実施体制〕

- ・ 主催：一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
- ・ 協力：東北ソーシャルビジネス推進協議会
- ・ 協賛：損保ジャパン日本興亜株式会社、株式会社大地を守る会(他調整中)

〔審査委員〕

- ・ (委員長) 藤田和芳 氏(株式会社大地を守る会代表取締役社長)
- ・ 池内計司氏(IKEUCHI ORGANIC 株式会社社長)
- ・ 風見正三氏(宮城大学事業構想学部教授)
- ・ 関正雄氏(損保ジャパン日本興亜株式会社 CSR 部 上席顧問)

〔賞の種類〕

名称	対象
ソーシャルビジネス・リーダー賞	既の実績や成果を十分に有している社会的企業家を表彰
ソーシャル・アントレプレナー賞	今後の可能性が期待できるスタートアップ期の社会的企業家を表彰
ソーシャル・プロデューサー賞	地域と様々なステークホルダーをつないでいるコーディネーターを表彰
ソーシャル・コミュニティ賞	まちづくりや産業振興に寄与している、コミュニティにおける団体やグループを表彰
ソーシャル・ターン賞	地域活性化を推進すべく、Iターン、Uターン、半農半X的な取り組みを行っている社会的企業家を表彰
*特別賞	3月15日開催予定の「東北復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」当日の出展者の中から、来場者の投票によって決定される賞
*東北復興ソーシャルビジネス50選	一次審査を通過した事業者を、今後に向けた奨励の位置づけで選定し、3月15日に発行予定の「東北復興ソーシャルビジネス・ケースブック」に掲載すると共に、ギャザリングにおける展示等での情報発信を図る。

〔審査基準〕

社会性

- 社会的課題をビジョンに掲げ、実際に具体的な取り組みをしているか
- ステークホルダーを含め社会的なインパクトを持っているか

事業性

- その取り組みが事業として成り立っているか(事業収入・補助金・助成金・寄付など、収入基盤を持っているか)
- マネジメント体制が整備されているか(経済的に自立しているか、雇用があるか、など)

革新性

- その分野における過去の取り組みに対して新規性があるか(仕組みなどの新規性)
- イノベティブなビジネスモデルを開発しているか

(5) SB コミュニティ

ソーシャルビジネス・タウン創生のための応援団的な仲間づくりの場。「社会的課題分野」、「手法」、「地域(場所)」など、参加者の興味領域別のコミュニティ活動。

例)

・ 働き方委員会

障がい者雇用やダイバーシティという「社会課題分野」を対象としたコミュニティ

【「働き方委員会」開催概要】

毎月1回ペースで開催予定。以下は実施済みの委員会。

	開催日	検討内容
第15回	2014年10月1日	第3回ゼミナールの展開について
第16回	2014年11月13日	第3回ゼミナールの振り返り、今後について
第17回	2014年12月10日	今後について
第18回	2015年1月20日	今後について

(開催時間: 19:30~21:00、開催場所: SBN 会議室)

【「みんなの働きたい! 応援ゼミナール」開催概要】 (※実施済み)

	開催日	ゲストスピーカー	参加人数
第3回 (最終回)	2014年10月28日(火)	納富順一氏 (NPO 法人キャリア解放区代表理事)	14人

(開催時間: 19:00~21:00、開催場所: SBN 会議室)

・ りくぜんスタイルクラブ

陸前高田という「地域(場所)」を対象としたコミュニティ。昨年度8月2日と、今年度12月6日に表参道にて開催した、「岩手三陸うまいもの復興市」メンバーの、クラウドファンディング型通販サイト「りくぜんスタイル」を通じたコミュニティ化を図る。

・ 生き方・働き方を変える大学クラブ

生き方や働き方を変えたいと考えている人のための学びのコミュニティ。10月に陸前高田でプログラムを行い、その後メンバーによる会合を行って、今後の展開に関する議論を図る。(※実施済み。)

(6) SB プラットフォーム

ソーシャルビジネス・タウン創生のための推進組織。東京や全国のSB事業者・関係者と地域のプロデューサー・チームが協働する産官学民のセクターを超えた、クラスター推進を行う組織。

例)

・ まちづくり会社

地域の産業や仕事づくり、タウンマネジメントを進めるインキュベータ組織

例) なつかしい未来創造株式会社: 陸前高田の復興を推進するまちづくり株式会社。

- ・ 産業振興協議会
産官学民の協働により、ソーシャルビジネス・タウンのビジョンや構想を立案、推進するプラットフォーム
例) 一般社団法人生命環境産業振興協議会: 陸前高田の復興を推進する産学官民連携まちづくりプラットフォーム。

3 組織戦略

3.1 全体方針

事業ドメインの再設定に伴い、9 ブロックの地域協議会メンバーなど、事務局推薦による特別委員会を設置し、事業推進を図ります。(※特別委員会メンバーは現在調整中。)3 月にキックオフ会議を予定。

3.2 地域連携

「東北復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」などや委員会・研究会等を通じて地域協議会との連携を高め、全国レベルでのソーシャルビジネスの拡大・推進に引き続き努めていきます。

また地域協議会との連携と合わせ、SB 地方創生プロジェクトの候補地となるべく、テーマ×エリア プロジェクトを数か所設置し、国の予算をシーズマネーとして確保していくことを目指します。

3.3 入会促進

法人会員については、引き続き理事等からの紹介を通じた積極的なアプローチを行っていきます。一方で、顧問や評議員、フェローなどとして参画いただいている組織についても会費の支払いをより一層お願いしていきます。

また個人会員の入会促進のために、引き続き課題先進国会議等のイベントの場や、委員会、研究会、プロジェクトを通じた入会促進を図っていきます。

3.4 広報・PR

引き続きメールマガジンやフェイスブック等での活発な情報発信を行っていきます。

好評を博している連載コラムと会員のみなさまからの情報提供(活動紹介)も継続していきます。

現在展開している連続コラム「ポスト 311 の日本とソーシャルビジネス」は、1 月前期号で終了し、新たに「地方創生とソーシャルビジネス」というテーマでの展開を予定しています。

(連続コラム「ポスト 311 の日本とソーシャルビジネス」執筆予定者※一部実施済み)

回	執筆者
10 月前期号	渡辺一馬 評議員(一般社団法人ワカツク代表理事、株式会社デュナミス代表取締役、NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター理事)
10 月後期号	染谷ゆみ 評議員(株式会社ユーズ代表取締役TOKYO油田 プロジェクトリーダー)
11 月前期号	上田敬 評議員(日本経済新聞社編成局デジタル編集本部デジタル報道部コンテンツ企画委員)
11 月後期号	杉浦俊明 評議員(森永製菓株式会社 コーポレートコミュニケーション部長)
12 月前期号	高津玉枝 評議員(株式会社福市/LOVE&SENSE 代表取締役)
12 月後期号	奈須憲一郎 評議員(特定非営利活動法人森の生活 ファウンダー)
1 月後期号	堤香苗 評議員(株式会社キャリア・ママ代表取締役)

3.5 メンバーの拡充

引き続き事業を通じて関わりを持っていただいた方々に積極的に評議員、アドバイザー等に就任いただくべく、呼びかけを行っていきます。

3.6 定例会議

社員総会を年1回、経営会議を年2~4回、理事会を年2回開催し、円滑な組織運営を図ります。

4 スケジュール

	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	
定例会議	● 経営会議 (10月18日) ※実施済	● 理事会・総会 (1月)	● 経営会議 (3月)	● 理事会 (5月)	● 経営会議 (8月)
SBまちづくりプロジェクト ①SB地域創生プロジェクト	●	●	●	●	●
	事業開発			事業実施	
SBまちづくりプロジェクト ②SBワーク・イン・レジデンス	●	●	●	●	●
	事業開発			事業実施	
SBネットワーク塾 ①社会・地域を変えるプロデューサー塾	● 社会事業家100人インタビュー	● 課題先進国会議	● 講座開発	●	● 講座実施
SBネットワーク塾 ②生き方・働き方を変える仕事塾		●	● プログラム開発	●	● プログラム実施
ソーシャルビジネス・ギャザリング	● 経済産業省「東北復興ソーシャル ビジネス・ギャザリング」	●	●	●	● 事業開発
ソーシャルビジネスアワード	● 審査委員会 (11月29日)	● 表彰式 (3月15日)	●	●	● 事業開発
地域戦略、広報戦略	●	● 地域協議会訪問	● 事業開発	●	● 事業実施
	フェイスブック、メールマガジンを中心とした広報展開				